



## 第20回日本木材学会技術賞を受賞しました。

平成31年3月15日に函館アリーナにおいて2018年度日本木材学会各賞授与式が開催され、林業総合センター職員が第20回日本木材学会技術賞を受賞しました。

### 1 受賞名

「第20回 日本木材学会技術賞(2018年度)」

### 2 受賞内容

(1) 研究題名 「長野県産針葉樹を利用した接着重ね梁の開発と実用化」

(2) 受賞者名 林業総合センター 木材部 木材部長 今井 信

〃 木材部 研究員 吉田孝久

信州大学学術研究院(農学系) 教授 武田孝志

### 3 日本木材学会技術賞の概要

日本木材学会技術賞とは、木材及びその関連物質に関する技術について、優秀な研究、発明又は開発を行った会員(個人またはグループ)に授与される。(1999年創設)

[http://jwrs.org/awards/winners\\_2018.pdf](http://jwrs.org/awards/winners_2018.pdf)

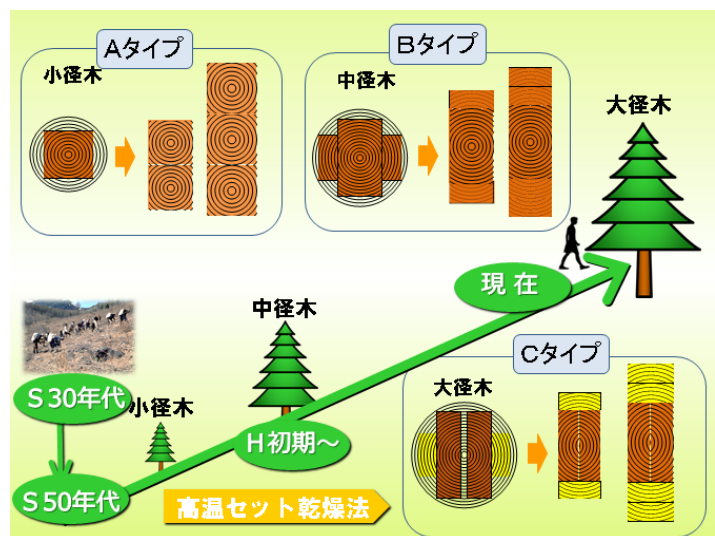
### 4 受賞した研究概要

当センターでは、国産材の利用割合が非常に少ない木造住宅の梁桁材に着目し、その時代の森林資源に対応した接着重ね梁の開発に着手した。2006年より本格的に製材、乾燥、接着、強度の一連の試験と性能評価を繰り返し、実用化に向けた技術的な改良を重ねた。

接着重ね梁は、JASなどの一般材規格から外れた構造材製品となるため、建築基準法の37条認定が必須であり、実用化に際しては実験的な証明を中心に多くのデータの積み上げが必要であった。寸法安定性を確保するための乾燥技術の確立や、接着性能及び強度性能の評価を行うと共に、強度推定モデル構築への検討を行いこれら技術の向上に対しても研究を行った。

その結果、信州木材認証製品センターが事業主体となり国土交通大臣認定を取得した。

接着重ね梁は、小径材から大径材までの利用が可能であり、これまでにない意匠性の高い構造材として、梁桁材への国産材の利用促進が期待される。



接着重ね梁の概要